優しく強い子に！

http://www.minamih.net/
１９・１０・　４（金）
南ＮＥＷＳｎｏ　８０

父母と教師を結ぶ雑誌

子どものしあわせ　２０１９．１０月号

……太田先生から学び・未来を考える……

ｐ２３～ｐ２６

……太田先生は，生命は「ちがう」「かかわる」「かわる」，このトライアングルを繰り返し，生命を全うする……

教育とは，「引き出すこと（ｅｄｕｃａｔｉｏｎ）」。その人（子）・その人（子）の違いを認め，その良さを引き出し，それ（良さ）を仕事にして，社会的貢献をしていく。……

以上のことは，それぞれの**違い**を認め，適材適所で互いに**関わり合い**，互いの考えや想いを伝えあい，学び合い，育ちあう中で，**自分を変えていく**。真に南で常に目指している“三間”の世界ですね。

ｂｙ南の安版万

太田尭先生に学ぶ

太田尭　教育学者　東大名誉教授 日本子どもを守る会名誉会長

……ドキュメント映画……かすかな光へ……「蟷螂の斧」のパンフレットに書かれた太田先生の原稿「蟷螂の斧」の紹介……

３・１１東日本大震災は，私たちの映画の内容がようやく出来上がった後での衝撃的な出来事でした。多くの生命が失われ，資料も無に化することになりました。人々は「これからどう生きるか」の深刻な問いに直面しています。

こうした悲劇的な事実にはるかに先立って，生命と生命のきずなの危うさは現代社会の現実として，潜在的には常化していた，と私は考えます。つまり，モノとカネ優先の社会では，地球上の自然破壊が日々進行し，人間関係はごく身近なところから疎遠になり，互いに自分を見失うという事件が日常生活の中で、次々に発生していたのです。おそらく貧富，生活信条の格差に根差すテロ，弱者（子どもを含む）への虐待，動機不明の重大犯罪，自殺など数えればきりがありません。

今回のような事態の背景には，自然の摂理へのヒトという動物のおごりがあってきたこと，それらに対する深刻な反省なしに，モノとカネによる「復興」がおこなわれたとしても，生命と生命のきずなの危うさは，取り残されたまま，更なる悲劇を招くことになりかねません。

モノトカネの支配下にあるこの現実を，自然から与えられた生命と生命のきずなによるセーフティーネットに根ざしたものに建てなおすことは，次世代に対する私たちの責任だと考えます。この映画では，できるだけ身近なところから，挑戦を試みる年老いた研究者の夢を描き出していただくことになりました。

「ちがうこと」　「かかわること」そして「自ら変わること」，およそすべての生き物の備えた生命の特質を手掛かりとして，人間の尊厳，基本的人権を軸とするセーフティーネットの創造につなげることで，モノとカネが支配する社会に，何とかくさびを入れる，そういう夢を持ち続けてきました。その挑戦は巨人に挑む「蟷螂（かまきり）の斧」にも似た途方もないことなのかもしれません。

これまでのところ，ささやかな一つひとつの試みも手ごたえを得たとまで云えるほどのものはありません。それでも，厳しい現実に取り組む人々に想いを馳せながら，そのかすかな光をめざした一歩々々の中で，快く夢を分かち合う多くの仲間と一日々々を過ごしております。

この映画を通じて，一人でも，二人でも新しい仲間ができることで，残り少ない余生を送ろうと思っております。

※太田先生は２０１８年１２月２３日にお浄土に還られました。